

再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 国道・技術課
担当課長名：東川 直正

事業名 地域高規格道路 北条湯原道路 一般国道313号 倉吉道路	事業区分 一般国道	事業主体 鳥取県
起終点 自：鳥取県倉吉市小鴨 至：鳥取県倉吉市和田		延長 4.1 km
事業概要 北条湯原道路は鳥取県北栄町から岡山県真庭市へ至る延長50kmの地域高規格道路である。倉吉道路は北条湯原道路の一部を構成し、線形不良区間、事故多発区間の解消、円滑な交通の確保により地域間の交流連携強化を図る目的とした延長4.1kmの2車線バイパスである。		
平成17年度事業化 平成18年度都市計画決定 平成18年度用地着手 平成19年度工事着手		
全体事業費 約131億円 事業進捗率 約94% 供用済延長 3.3km		
計画交通量 8,200～10,900台/日		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 26.5	総費用 (残事業)/事業全体 6/173億円 (事業費：5/170億円 維持管理費：1/3億円)
		総便益 (残事業)/事業全体 155/221億円 (走行時間短縮便益：135/192億円 走行経費減少便益：14/19億円 交通事故減少便益：6/10億円)
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.0～1.6(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=21.1～32.9(交通量±10%) 事業費：B/C=1.3～1.3(事業費±10%) 事業費：B/C=24.3～29.0(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.2～1.3(事業期間±20%) 事業期間：B/C=25.9～27.4(事業期間±20%)		
事業の効果等 <ul style="list-style-type: none"> ・中国横断自動車道岡山米子線及び中国縦貫自動車道、山陰自動車道と一体となった広域的な高速道路ネットワークを形成。 ・鳥取県中部地方生活圏と岡山県真庭地方生活圏との連携と地域活性化に寄与。 ・観光地までのアクセス性向上や関西方面や鳥根県方面からの観光客数増加を促進。 ・西倉吉工業団地やその他の工業団地へ進出工場が増加しており、工業団地の拡張計画と合わせ、企業誘致、企業活動を支援。 ・交通渋滞の緩和により損失時間が削減され、CO2排出量の削減が見込まれる。 ・緊急輸送道路としての機能を強化するとともに緊急車両到達時間を短縮し、要救護者の救命率向上に寄与する。 		
関係する地方公共団体等の意見 北条湯原道路の整備促進について、鳥取・岡山・広島との3県で構成される「国道313号整備促進期成会」、倉吉市・真庭市・北栄町で構成される「一般国道313号地域高規格道路整備促進協議会」等から要望を受けている。		
事業評価監視委員会の意見 当該事業については、事業費用、事業期間及び将来交通量の見直しによる走行時間短縮、走行経費減少、交通事故減少に伴う費用便益比の再算定の結果について検証を行った結果、継続が妥当と判断した。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 <ul style="list-style-type: none"> ・山陰自動車道の一部を構成する北条道路（国交省：L=13.5km）が平成29年度に新規事業化。 ・北条道路に接続する北条湯原道路（延伸）（北条JCT：L=0.4km）が平成29年度に新規事業化。 		
事業の進捗状況、残事業の内容等 <ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度に事業化され、平成30年3月現在で用地進捗率100%、事業進捗率94%となっている。 ・倉吉西IC～倉吉IC（L=3.3km）が平成25年6月に開通した。 ・倉吉市小鴨～福光（小鴨ハーフIC（仮称）～倉吉西IC：L=0.8km）を事業中。 		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 現在は工事を推進しており、倉吉関金道路の福山IC（仮称）～小鴨ハーフIC（仮称）間（L=3.0km）と一括して開通予定。		

施設の構造や工法の変更等

盛土必要土を他の事業箇所より流用することによりコスト縮減を図っており、今後もコスト縮減を図りつつ事業を推進していく。

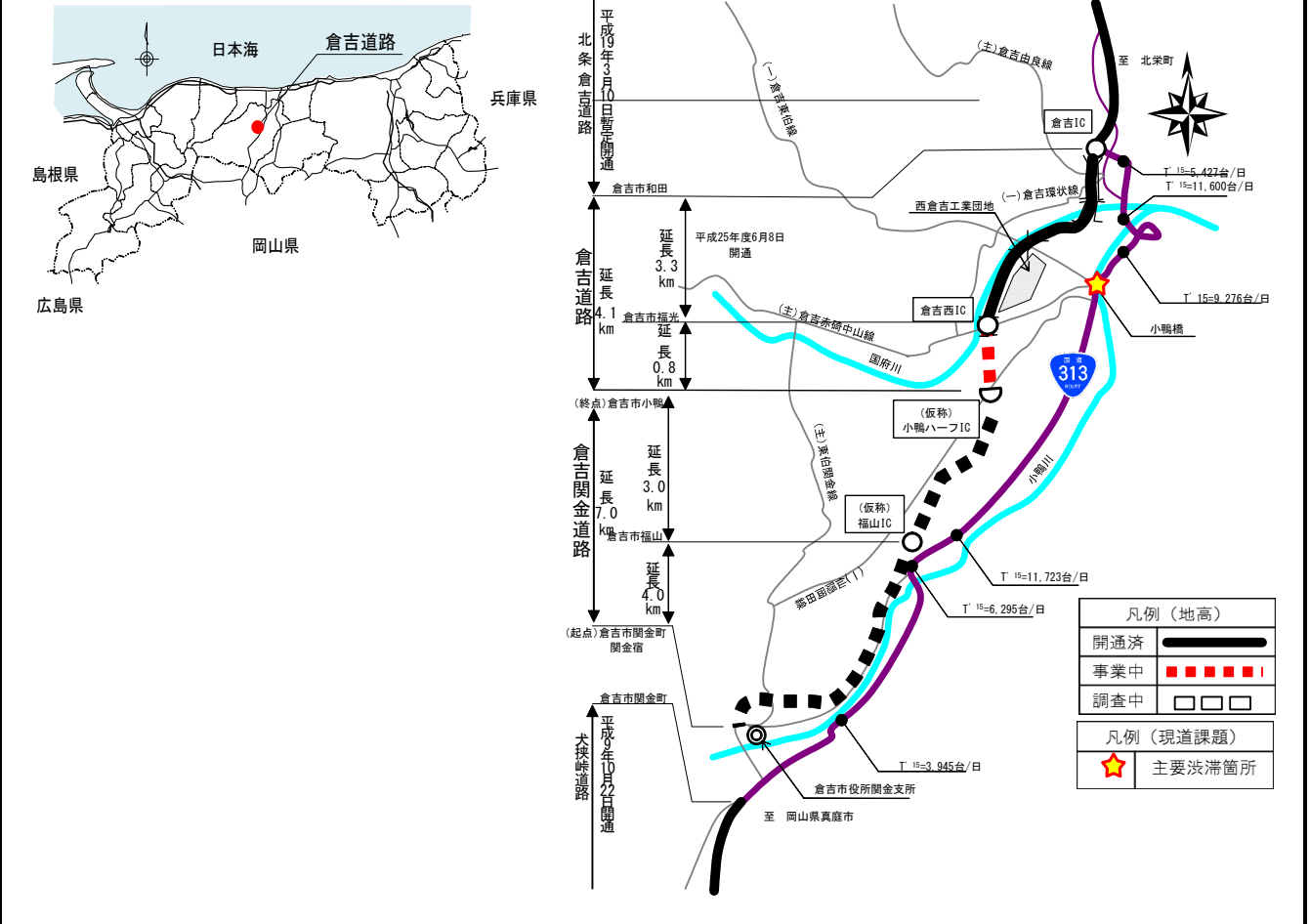
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を踏まえると、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。